

美容と健康の大切さを伝えたい

渡邊明美 aminoe 社長

強みはオールハンド

「エステティシャンは、お客さまに元気になってもらう仕事。女性の真の美しさを引き出すのが、私たちの役目です」。こう話すのはエステティックサロンを経営する株式会社



わたなべ あけみ 1967 (昭和42)年3月7日生まれ、50歳。大分県豊後大野市出身、熊本商業高校卒。高校卒業後、社会保険診療報酬支払基金に勤めた後、2002年「アミノエル」を開設、2012年(株)aminoeを設立。エステ以外にも日本着装技術師(着物着付け講師)、イラストなどさまざまな「美」に関する技術を持っている。趣味はドライブ、映画鑑賞、旅行

転々とし、高校3年の時に熊本市へ。何度も転校を経験するうちに、内向的だった性格はしだいに変わっていったという。熊本商業高校卒業後、社会保険診療報酬支払基金に入所。高校時代に得意だった簿記を生かし、手堅い職に就いた。

minoe(熊本市中央区新大江1丁目)社長の渡邊明美さん。自然素材を用いて自己治癒力を高めることをコンセプトに、アロマセラピー、タラソセラピー、デッドシーセラピーの3つの柱を施術の基本とし15年前に創業、現在は中央区水

前寺公園で「アミノエル・デイバン」を運営する。20代から60代と幅広い層の女性が、美と健康、癒しを求め、同サロンを訪れるという。同サロンの強みはオールハンドによる施術。近年は、エステ用の機械で施術を行うサロンも多い

さらに太って、(スリーサイズが)上から100、100、100という感じに……。本人の言葉から推察すると、一時期はドラえもんのような体形だったようだ。24歳の時、母から若いうちに痩せておかないとわかってしまうとやわらたことで、一念発起。努力の末、1年間で20kgのダイエットに成功した。

「綺麗になれば、周りの見る目も自分の見える景色も変わる。そして、もっと多くの方に美容と健康の大切さを伝えられ

「肌に触れて脈を通じ、言葉が交わすからこそ体の状態が分かるんです」とオールハンドへのこだわりを強調する。

ダイエット成功を機に美容の道へ

通信教育でエステを学ぶ

取材をしていて感じたのが、渡邊さんは小柄だがとてもパワフルな女性であるということだ。取材当初は軽快かつ強烈なトークスキルを前に、圧倒されてしまったというのが正直な感想だ。だが、幼少期について尋ね

ると、「私は大人しいタイプの子どもでしたし、気も弱かったです」と返答。おしとやかだった過去の一面もすっかりとアピールしてくれた。渡邊さんは大分県豊後大野市生まれ。幼少期は父の仕事の都合で九州を

ていた京都市の学院での着付け教室。エステサロンに勤める生徒の一人から話を聞くうちに、しだいに興味を持つようになった。通信教育で勉強しながら、日本エステティック協会認定のエステティシャンとなった。2002年に、国民生活金融公庫で借りた500万円を元手にエステティックサロン「アミノエル」を開設。始まりはマンションの一角だったが、少しずつ顧客を増やし、知名度を高めていった。

「以前から体の不調、辛さを訴えるお客さまは非常に多く、何とかして救ってあげたいと、日夜研究を重ねてきました。その思いの集大成が、「ストレスリリーブ」だったんです」。08年4月、このストレスリリーブの施術をスタートすると、多くの利用客が訪れるようになり、その効果が口コミで広がったことで予約が殺到するまでになった。

起死回生の「ストレスリリーブ」

口コミで予約が殺到

07年には法人化し(株)VITAROSAを設立、水前寺に新店舗「ルイード アミノエル」をオープンした。熊本第一信用金庫から融資を受け、今度は2千万円を借りた。「当初は経営がうまくいかず、この年の年末

には資金が尽きるなど、まさにどん底の状態だった」と渡邊さん。起死回生を狙い、新たに始めたのが「ストレスリリーブ」と言われる同社オリジナルの施術法の開発だった。いわく、整体と指圧、按摩のテクニックを応用



中央区水前寺公園の「アミノエル・ル・デイバン」のトリートメントルーム



「アミノエル・ル・デイバン」内にあるショップスペース

京進出も果たした(現在は閉店)。昨年5月には、中国の長春中医薬大学で「未病とエステティックについて」をテーマに講演。医師や薬学関係者が参加するなどエステ業界だけでなく、医療業界からも注目を集めている。

激務と戦う経営者であると同時に、女性の美を啓蒙する美容家でもある渡邊さん。気になるのが、ハードな環境にありながらその健康と美をいかにして保っているのだろうかという点だ。プロ美容家の1日の生活と美の秘けつを見ていこう。

渡邊社長の朝は早い。朝5時には起床し、1時間ほどウォーキング。歩きながら1日のスケジュールを組み立てる。その後、自宅でマリナアルゲと呼ばれる海藻の入浴剤を使用した、昆布風呂に浸る。20〜30分ほどぬるま湯にひたりながら、メールチェックやSNS、ブログなどを更

新。「前日のお客さまへのお礼メールと今日いらつしやるお客さまへのメール、そのほか誕生日などのお祝いメールを送りま

す。ブログは10年以上ほぼ毎日更新しています」。

風呂上りは入念なストレッチを欠かさぬこと

で、美の維持に努める。

基本睡眠時間は4〜5

時間。食事については、

バナナやヨーグルトと

いった消化に良いものを

摂り、夜は外食が中心。

仕事柄バランスの良い食

生活を保つのは難しい

が、「そこはマリナルゲ

に毎日入浴することで、

肌から栄養を吸収し、健

康を保つようにしていま

す。体調管理ができてい

ないと、良い施術もでき

ませんからね」

今年で創業から15年。

振り返れば、波乱万丈な

半生だった。「とにかく必

死でした。人間というのは

は生活がかかっているば

は生活がかかっているば

張らざるをえなくなる。

私がお金持ちのお嬢さま

だったならこんな人生は

送ってはいなかったと思

います」。

「人とのつながりがこそが財産」

今年2月には同社オリ

ジナルの施術法「ストレ

スリリース」と「アミノエ

ル」の商標登録を行い、

自身の目指すアミノエ

ルのブランド化に一步近づ

いた。今後はスクール事

業への注力で後継を育成

し、「アミノエル」のフラ

ンチャイズ展開も目標に

掲げる。また、OEMの

化粧品開発、販売や通販

事業などといった多事業

化も視野に入れている。

最後に抱負を聞くと、

「まだまだやりたいこと

送ってはいなかったと思

います」。

だらけ。今以上に男尊女

卑の時代に生まれた私

は、女一人でも自立して

やっていたけるといいうこ

を証明したいという思い

が強かった。しかし。こ

こまでこれたのは周囲の

人間に恵まれていたから

こそ。人とのつながり

：これこそが私にとって

の財産だと思えます」と

渡邊さんは熱く語った。